

平成18年度 文部科学省 **科学研究費補助金** 実績報告書要介護者の居宅や施設で歯科保健、医療、
介護をより確実にする専用機器の開発

野村 章子 (歯科技工士学科)

研究実績の概要

本研究は居宅や介護施設で効率よく使用できる歯科保健医療介護機器と、安全で容易に要介護者の体位を保持できるリクライニングチェアを設計し、試作することが目的である。

初年度は、歯科保健医療介護器材の整備のために計上されていた学内研究費で組み立てられた訪問診療用ユニットについて、その性能を評価し、種々の問題点が明らかにした。そこで、当該予算を使って、新たに歯科治療用バキュームとコンプレッサー、歯科治療器具、歯科保健器具、口腔介護器具、歯科技工用機器を購入し、さらに試作機の設計までを完了した。

平成18年度は、診療ユニットの設計に際して、歯科材料や器具を搭載できるオールインワン仕様、車椅子のような移動式、車椅子のサイズに収まる、違和感を与えないデザイン、歯の切削に必要な機器を装備、簡単な技工作業スペース、収納用の棚が組み込まれている、設置と準備は簡単で迅速、吸引や注水のメンテナンスが簡単、の9項目に基づいて歯科医師6名、歯科衛生士10名、歯科技工士12名を対象に、歯科ユニット試作機の移動性、重量、切削、吸引機能、収納性、技工作業性、設置や診療準備などについてアンケートを実施した。その結果、介護保険施設や病院への搬送し、要介護者の歯科治療、口腔ケアおよび歯科技工を実施する上で本試作機は有用であったが、移動性、大きさ、収納性、切削・吸引機能、技工作業性、設置や診療準備の面で、問題点も指摘された。以上の研究成果は、「第17回日本老年歯科医学会学術大会」沖縄6月、「新潟県歯科医師会会員発表会」新潟12月において公開した。

イーラーニングによるコミュニケーション・
トレーニング・シミュレーション作製

山田 隆文 (歯科衛生士学科)

研究実績の概要

歯科医療面接のシミュレーション・プログラムを作成するための前段階として、

- ・ 歯科医療現場でのコミュニケーションの解析
歯科医師・歯科衛生士などの言動的・行動的な解析を開始
- ・ 模範的なコミュニケーションの資料採取
歯科医療コーチング専門家招聘による、スタッフ・学生へのデモンストレーション
同時に、paraverebal communication (アクセントやイントネーション) の解析
nonvaerebal communication (非言語的な、仕草や表情など) の解析
- ・ 資料収集・解析機器の整備
情報処理のためのハードディスク、および、動画編集ソフトの購入
- ・ シミュレーション学内公開の準備
既存、学内ホームページ用サーバーに、イントラネット用サーバーを接続
一般ホームページ形式 (HTML) による学内閲覧可能な環境を整える
- ・ シミュレーション作製のためのシナリオ作製を開始
前項、歯科医療コーチング専門家協力による、シミュレーション用シナリオ作製の開始
初診時、受付での、患者-スタッフ間の会話の樹状モデル (良い会話・悪い会話)
初診時、診療室での、患者-歯科医師間の会話の樹状モデル (良い会話・悪い会話)

等を行った。